



EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2005 Vol.

6



Photo by Y.Harada/H.Wakita(c)

スズキの伏兵、秋吉耕佑。衝撃の全日本復活! 伊藤真一を抑えて見事にP.P.を獲得!!

早くも終盤戦を迎える全日本選手権ロードレース。全8戦で行なわれるJSBクラスだが、この鈴鹿を含め、残り3戦となった。ここまで5戦、優勝3回、2位1回、4位1回とまさに独壇場の活躍を見せている伊藤真一(ホンダドリームRT)がポイントランキング上でも2位以下を引き離し、チャンピオンハーフに近いところにいる。

今シーズン、予選1回というスケジュールが多かったJSB1000クラスだが、今大会は予選2回のスケジュールになった。これは、JSBクラスのエントリーが多く、2組に分けなければならなかったためだ。

A組予選1回目、30分の予選で2分9秒473のトップタイムをマークしたのは伊藤。しかし、自らが春の鈴鹿2&4でマークしたコースレコード、2分9秒211にはわずかに及ばない。伊藤は2周目にこのタイムをマークしており、本格的なタイムアタックは午後からの2回目に持ち越しとなった。辻村猛(F.C.C.TSR)、山口辰也(ホンダドリームカストロールRT)が2

分9秒台。続くB組では、開幕戦の転倒リタイヤが響いてポイントランキングでは4位に沈んでいる中富伸一(YSP&PRESTOレーシング)がコースレコードを破る2分9秒116を出す。これも2周目に出したタイムなので、勝負は2回目の予選になりそうだった。渡辺篤(ヨシムラズキジョモスリクソン)も3周目に2分9秒台を出し、B組2番手。その後は決勝へ向けたセットアップに専念していた。

予選2回目、ほとんどのライダーが20分ほどをセットアップに使い、残り10分を切ったあたりから、グリッドを決めるタイムアタックに入っていく。まず辻村が動いた。午前中の自身のタイムを更新、さらに翌周、2分9秒058を出し、伊藤、中富のタイムを更新した。しかし、ここで真打ちが登場した。秋吉耕佑(こうすけ)だ。8年前に全日本に出場して以来、スズキのテストライダーとしてGPマシンやスーパーバイクの開発に専念していたライダーだ。30歳の秋吉は、全日本では馴染みがないが、グランプリでは陰の

存在として知られている。

ヨシムラからのスポット参戦を果たした秋吉は、辻村のタイムをコンマ5秒も縮める2分8秒479というスーパーラップを叩き出し、リーダーボードの頂点に躍り出た。ここで予選時間は残り3分を切った。満を持して伊藤がニュータイヤでアタックを開始した。しかし、伊藤のタイムはコンマ1秒、秋吉に及ばず、A組で2番手となった。そしてB組、やはり予選終了5分前からタイムアタックが始まった。最初にタイムを更新したのは中富で、やはり2分8秒台には入れないものの、秋吉、伊藤には及ばない。続いて渡辺も8秒台へ入れるが、わずかに中富のタイムをクリアすることができない。残り2分、中富が再度チャレンジするがやはり伊藤に及ばず、総合3番手となった。

秋吉の登場でますますおもしろくなってきたJSB。10人近い国内トップライダーによる激しいバトルが予想される。

[青木 淳]

楽しみ方いろいろ。 MFJ SUPERBIKEの情報満載



GAORA(CS放送)で全戦放映!!

地上波ローカルTV局でもダイジェストを放映!

ブロードバンド動画サービスやライブムービーなども展開。

詳しくは、情報満載のオフィシャルファンサイト superbike.jp へ!!



酒井大作が3戦連続P.P.! タイトル争いにも注目!!



酒井大作が、今回もコースレコードを塗り替えポールポジションを獲得した。これで3戦連続となるが、いずれも単独でタイムを出している。今回も、予選が始まってから約2分が経過してからピットアウトし、タイムアタックに入っていた。これは単独でタイムを出せるライダーが行なうもので、それだけ、今の酒井はノレている証拠。単独でもトップスピードは伸びており、ライダーもマシンも調子はよさそうだ。

「事前テストから15秒台に入っていたし、今

回は14秒台を狙っていたがダメでしたね。なかなかクリアラップも取ることができないし、マークもきつかったので思うように走れなかった。勝負できる状態になっているけれど、厳しいレースになると思う。自分の速いところ、遅いところは分かっているので、レースをうまく組み立てていきたい」と第4戦オートポリス以来の2勝目を狙っている。その酒井が最もマークしているのが、ゼッケン1をつける辻村猛だ。予選順位こそ7番手だが、金曜日には2分15秒846をマークしており、安定した速さを見せている。決勝では酒井の最大のライバルとなりそうだ。

2番手につけた徳留和樹は、2分15秒713をマークし、ダンロップユーザーで最上位。前戦はトップ2台を追い切れず悔しい思いをしただけに、ここでポイント差を縮め、タイトル争いに踏みとどまりたいところだ。ポイントリーダーの手島雄介は、事前テストからタイムが出ず苦戦していたが、予選で16秒台に入れ10番手、3列目からのスタートとなる。一方、1ポイント差で手島を追う、安田毅史は、2分16秒128で4番手。いま一つの状態と言うが、手島に比べると、安田にやや分がある状態。レース中は、二人のポジションも気になるところだ。

レース序盤は徳留がレースを引っ張り、酒井、辻村がついていく展開になるか？ 奥野正雄、沼田憲保、宮崎敦、大崎誠之とヤマハユーザーも侮れない存在。混戦となるか？ 抜け出すライダーがいるか？ いずれにせよハイレベルな戦いになることは間違いない。

【佐藤 寿宏】

写真(上):酒井大作 (下):徳留和樹

青山周平が独走するか？ 横江竜司が意地を見せるか??



青山周平が前評判通り、圧倒的な強さを発揮している今シーズン。先週ツインリンクもてぎで行なわれた日本GPでも、予選3番手、フロントロウにつけるなど、日本を代表するライダーとしていい走りを見せた。ここまで4戦して優勝3回、2位1回と文句のつけようのない成績を収めているが、実質のライバルが不在なだけに、周平にとっても難しいシーズンとなっている。日本GPのように、目の前に見える敵がいれば、もっともっと、その実力は伸び

るはずだ。今は、自分だけの力で、どこまで速さを磨けるかが試されている。今回の鈴鹿ラウンドも、コースレコードの更新と、決勝では最初から最後まで全力で走ることが目標だ。

50分1セッションの公式予選で、周平は予選終盤に2分12秒016をマークし、コースレコードを更新。ここまで全戦ポールポジションを獲得する結果となった。「予選では、タイムを出すことに専念した。調子は悪くはないけれど、GPライダーならば10秒台に入ったと思う。決勝は、いつも通り走るだけです。残り3戦で速さを見せたい」と周平。2番手には、横江竜司が2分12秒997で続いた。「最後に少しだけ引かなかったけれどクリアラップを取ることができて、何とか12秒台に入った。エンジンが安定していないので、そこを詰めていかないといけない。決勝は、周平に何とかついていって、最後に勝負できればいいですね」と意地を見せたい横江。3番手に自己最高位となる及川誠人が2分13秒521で続き、高橋江紀、ラタパー・ヴィライロー、佐藤裕児が2分14秒台。先週の日本GPで負傷している徳留真紀は7番手につけた。

周平についていける可能性があるのは横江しかない。横江がどこまで周平についていけるか？ 及川は、やっと実力通りの走りができるようになってきている。悲願の表彰台獲得に向けての課題はスタートとなりそうだ。

【佐藤 寿宏】

写真(上):青山周平 (下):横江竜司

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

【青木 淳】 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある46歳。
 【佐藤 寿宏】 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶぎ”というめでたいヤツ。モータースポーツジャーナリストの片隅に置いてやってください。今年はMotoGPにも参戦(※ライダーで)。
 【川岸 健二】 ロードレース専門誌「サイクルサウンドス編集部」に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で6年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

仲城と葛原でJhaレーシングの1-2。 勝負は菊池を加えた3台か。



2005年シーズンも残り3戦となり、タイトル争いが佳境を迎えてきた。前戦SUGOを制し、ポイントリーダーとして鈴鹿に乗り込んできたのは40歳のベテラン菊池寛幸だが、金曜の練習走行でエンジンの焼き付きを起こし、「今は決勝を最後まで走り切ることで精一杯です」と、それどころではない状態だ。ランキング2位の井手敏男は鎖骨骨折を抱えて事前テストなしのぶっつけ本番となったが、「タイトル争いは気にしていませんが、残りは全部勝つつもりでいます」と必

勝を期する。

一方、このレースの勝敗という意味では、Jha チューンのトップエンド仕様RS125Rを武器とする仲城英幸と葛原大陽の二人は見逃せない。特に葛原は1週間前の日本GPでワイルドカード勢トップの成績を残し、その勢いそのまま金曜のフリー走行でトップタイムを叩き出した。鈴鹿では昨年、一昨年とトップ争いに加わっているだけに「残りは全部勝つつもりでいます、特に鈴鹿だけは譲れません」とSRS-J(鈴鹿サーキットレーシングスクールジュニア)出身の葛原は言う。

さまざまな思惑が交差する中、予選では中盤頃に「ちょうどいいタイミングでクリアラップがとれた」という仲城がコースレコードを叩き出し、ポールポジションを獲得した。葛原は最後のアタックで東コースまでトップタイムをマークしていたが、最終区間で遅いバイクに引っかかった影響から2番手に留まった。3番手はエンジンを修復して持ち直した菊池となった。

決勝は混戦模様が予想されるが、仲城、葛原、菊池の予選タイムが抜け出ていることを考えると、この3人が集団を抜け出す可能性が高い。一方でタイトル争いの当事者である菊池(67ポイント)と井手(58ポイント)の駆け引き、そして予選上位につけた16歳の大谷和也、20歳の濱本裕基、13歳の中上貴晶らに22歳の葛原を加えた伸び盛りの若手にも注目したい。

[川岸 健二]

写真(上):仲城英幸 (下):葛原大陽

9/25(日)決勝日イベント情報



※イベントは変更または中止されることがあります。
※写真はイメージです。

4月1日より二輪車の高速道路二人乗り解禁!!
タンデムツーリングでの来場を歓迎いたします。

Good Highway Manners
クルマもバイクも思いやり2倍

恒例のキャンギャルオンステージ。今回は、特製パドックバス購入特典として、ピット2Fホスピタリティブースで開催!!

キャンギャルオンステージ

- 時間: 9:30~
- 場所: ピット2Fホスピタリティブース
- ※観覧にはパドックバス(有料)が必要となります。

ライダー・キャンギャル・マシンを間近で見られるピットウォーク。その間コントロールタワー横2階ステージでは、ライダートークショー、コース上ではキッズ&レディースバイクパレードも開催します。

ピットウォーク

- 時間: 11:50~12:40
- 料金: 1,200円(税込み)
- (グラウンドスタンド入口横サーキットカートチケット売場)

全日本ロードレース恒例のサーキット先導付き2輪体験走行 サーキットクルージング(無料)

- 時間: 16:45~ 全決勝レース終了後
- 受付・集合場所: 9番ゲート横バイク専用駐車場

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった4種類のチケットで、今年も国内最高峰のロードレースをお楽しみください。
オフィシャルファンクラブがSUPERBIKE SUPPORTERSとして新しく生まれ変わり、さまざまな特典のついたバスを販売しています



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL : 0285-45-8465(AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

RIDING SPORT SINCE 1982
毎月24日発売

2005年11月号<No.274>は好評発売中!

株式会社ニュース出版

CYCLE SOUNDS EXCITING ROADSPORTS MAGAZINE

月刊サイクルサウンズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂